

私の住民票がある帯広もようやく周りに積もっていた雪もすっかり解け、日差しも春になったなあ～って感じる日が多くなってきました。あんなに寒くて地面もしっかり凍っていたのに、雪が解けて土の中から草の芽が吹き出てくる様子を見ていると、自然界の生命力の逞しさに感動してしまいます。一面真っ白な世界から一転して淡い新緑に覆われ自然の息吹を感じる。冬から春に...私は北海道のこのダイナミックな季節感が大好きです。

さて、先月に続いて今月も堆肥舎のお話です。今回は堆肥発酵プラントを使っていない堆肥舎を写真で紹介いたしますね。

写真 1 は補助事業とかで建設されているよく目にするタイプの堆肥舎です。このように仕切り壁を作って箱形に堆肥を積み上げ、床下からブローアで空気を送るタイプです。こういうタイプのはなかなか堆肥をうまく作れませんね。その理由はこの部屋の第5回のところで説明しましたが、私は余りお勧めしたくありません。

でも下の写真 2 は佐賀県の北村尚志さんの農場の堆肥舎ですが、既に仕切り壁を作っていたとしても写真 3 のように積み上げられるなら、ブローアが無くてもとっても良い堆肥を作る事が出来ます（勿論、アースジェネターは使っていますけど...）北村さんが作った堆肥は品質が良いと言う事で、近隣でもとても評判がいいんですよ。本人曰く、堆肥の注文が殺到して困っている？とか...。北村さん、是非皆さんのために良い堆肥をどんどん作り続けて下さいねっ！



写真 1



写真 2



写真 3

写真 4 は熊本県内を車で走っている時にたまたま見かけた堆肥舎です。畑の中にポツンと建っていたので牛舎との位置関係はよく解らないのですが、建物自体はよく考えて作られた施設だと思います。

その理由の一つが堆肥舎内の通路を真ん中にとって“向かい合わせ”で堆肥置き場を作っている事です。この方式は作業性が良くて堆肥の製造管理もしやすく使いやすいですよ！皆さんもこの中で堆肥を作る時、作業機械の動きをイメージしてみてください。ねっ、楽そうでしょう？楽という事は作業時間も短くて済むと



写真 4

ということですから大切な事なんですよ！

この写真ではちょっと解りにくいのですが、仕切りの壁の間隔が途中から狭くなっているのが解りますか？この部分は床下からブロアーで空気を送れるような設備が付いています。予算的に余裕のある方なら良いでしょうが、余裕のない方は仕切り壁の数を少なくしてブロアーを付けなくても、ハンドリングだけで良い堆肥を作れますよ！

私だったら仕切り壁を少なくして、ブロアーも付けずに作りますね！何てったって建設コストが安くなるし、電気代も掛からないですからね。それに、壁が少ないという事は、中で機械が動く時に自由に動けますから、作業効率が良くなりますでしょう？

もう一つの特徴が、屋根材に採光出来るものを使っている所です（写真 5）。

水分を飛ばすのに自然の恵みを利用するというのは経済的にも最高の技術ですよ。ここまで全面しないで縞状にしても同じ効果を引き出せると思います...

この部分は写真 6 の屋根も同じことが言えますね。また、こちらの建物は木造で、仕切り壁を少なくした分、柱の根元にコンクリートを巻いて補強しています。こうしておけば写真のようにカマボコ状に積み上げられますし、二日酔いで間違っても機械を柱にこすっても建物は大丈夫ですよ。

でも、大丈夫だからと言っても機械の操作には十分気をつけましょうね！どっちも大切な財産ですから少しでも長持ちさせましょう！

次は私がお薦めの“究極の？低コスト堆肥舎”をご紹介しますね！

この堆肥舎は宮崎県の野尻町にある山崎牧場さんが建設したものです。

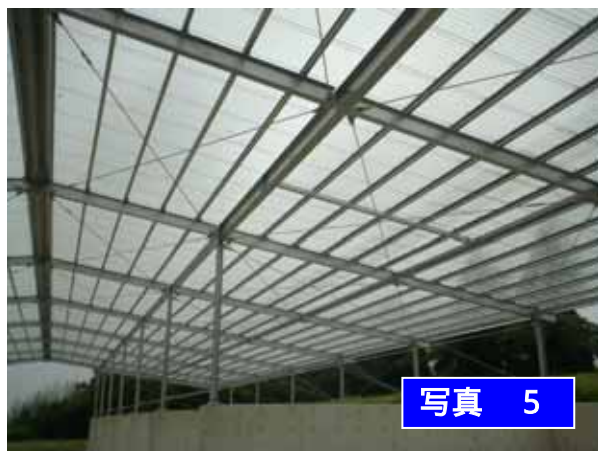


写真 5



写真 6



山崎牧場さんは約 1,300 頭の肥育農場ですが、自己資金で床面積が約 5,000 m²の堆肥舎を建設してしまいました。堆肥舎に必要な、風雨に耐えられる強度と泥濘化防止のための床面舗装、それと作業性が良い広々とした柱間隔と屋根の高さ、という条件を見事にクリアしています。外観的な見栄えよりも機能性と経済性を重要視したとても良い事例

と思います。建設場所も牛舎のすぐ近くで運搬効率も良いですよ。



作業機に合わせた屋根高

牛舎から敷料を出してからすぐこのようにカマボコ状に堆積していますので、翌日には発酵開始して温度が高くなっています。場内にある堆肥はどこの山を掘っても良く発酵していて、出来上がりは悪臭もなく、とても良い物が作られています。見た感じからでも（山崎さん、スミマセン！）建設コストがとても安く済んでいるというのは容易に想像出来ますよね！大切なのは見た目より中身ですから…。

このように堆肥舎と言っても色々なタイプの物があります。ここで忘れてならない事は、堆肥舎は“**ウンコを置く場所ではなく、ウンコを発酵させて堆肥を作る所**”と言う事です。そのために“みなさんの農場の様々な条件に、どんな方法が一番適しているのか？”をよ～く考えて、最良のものを作り上げてください。それも“必要最小限のお金で”です。

もちろん、堆肥舎を作っただけでは良い堆肥は出来ませんよ！以前“堆肥の作り方”の中でお話ししてきましたように、ウンコの中あるいは自然界に生きている目に見えない生き物、つまり微生物の力を上手に生かさないと良い堆肥を作ることができません。皆さんが飼っている牛さん達も同じ生き物ですから、その能力を出すための飼い方って色々ありますよね？そのために色々と手をかけてあげます。それと一緒に、微生物もしっかり生かすための方法、やり方は色々ありますし、手を掛けてあげなければ微生物も働いてくれません。そして堆肥は堆肥舎とこの技術（ハードとソフト）を組み合わせると初めて良いものを作る事が出来るんです。ですから、これから堆肥舎を…と思っている方は計画の段階からまずしっかり頭を働かせましょう！（考える事、これはいくら使ってもタダ？ですから…）次に自分の体を使いましょう！（他人の体には賃金が必要！）誰ですか？！“タダほど高いものはない”って言ってる人は…？そんな人居ませんよねっ？！

そして、それでも足りないところをお金で補いましょう！前回も書きましたが、お金を“使わない”という事は“儲ける”のと同じ事ですからね！是非、たくさん儲けて下さいねっ。そして、アースジェネターをいっぱい…。あっ！済みません！これは余計な事？でした！！

今回は今年の4月に現代農業という雑誌で紹介させていただいたのですが、“ウンコを出さない牛舎”のお話をもうちょっと詳しくお話しさせていただきますね。

堆肥処理というのは畜舎から出てきたウンコを堆肥化するという事ですが、ウンコの処理をしなくて良い方法、つまり牛舎からウンコが出てこなければ良いわけですよ。楽ですよお～！楽しみにして置いて下さい。 つづく